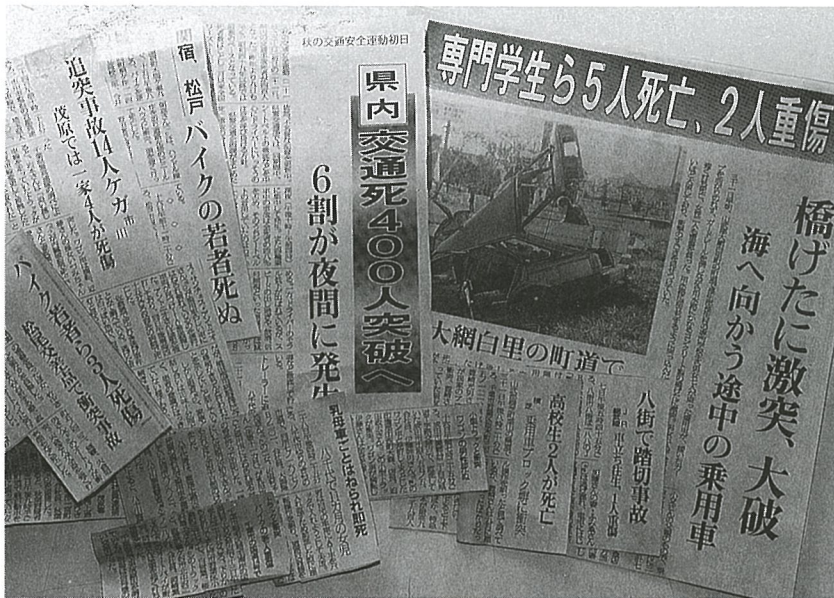


特集  
交通安全を  
考える

# 原因の大半は安全運転義務違反

近年は交通量の増加に伴い交通事故も多発し交通戦争とも叫ばれ、事態は非常に悪化しています。特に、千葉県は交通死亡事故多発県という不名誉なレッテルをはられています。また、私たちが交通戦争に巻き込まれるとつかえしのつかないこととなります。そこで、今回は交通安全についてみんなで考え、町ぐるみでの交通戦争の防止について考えてみたいと思います。

# 交通事故は防げる



新聞の記事から消えることのない交通事故

## 町の人口とかわらない交通事故死亡者

私たちが毎日見る新聞の中で、かならずといっていいほど掲載されているのが交通事故に関する記事です。事故の形態はいろいろ異なりますが、いずれにしてもどこかで犠牲者がでていくという事実があります。3ページに示してある交通事故の発生状況を見ると、

1,451人います。町の人口は12,176人(平成5年10月1日現在)ですから、おおむね1年間の交通事故により町の人口がなくなるといえることになりました。言いかえてみれば「光町」が1年間でなくなってしまうという事です。

全国の交通事故発生件数は昭和60年に552,788件発生していたが、平成4年には695,345件になり、8年前にくらべると1年間に142,557件も増えていることとなります。また、平成4年に交通事故でなくなっている人は、全国で1

また、千葉県でも、この8年間に3,844人、八日市場警察署管内でも69人、町内でも11人の人が交通事故の犠牲者になっています。このような現実をふまえるだけでなくはすまされないと思います。

## 運転行為を非常に甘く考える運転者

子供やお年寄りなどの交通弱者の事故は加害者、被害者双方の注意がおろそかになって起こります。こうした結果から「つつかり」

によって交通死亡事故が発生しているといえます。いざれにしても前方不注意、安全不確認などが原因になっているということなのです。

「基本的ルールの無視」と表現すると軽いことのように思いがちですが、物事の第一を構築する土台ができていないということですから、即大事故につながってしまうのです。

免許取得人口が増え、車が増え、たくさん車が走る道で、ヒヤリとする運転にでくわすことが多くなってきた気がします。そうした人たちに共通してうかがえる運転行動は、交通ということ、運転するということ、非常に甘く考えているということです。シートベルトの非着用、崩れた運転姿勢、連続する左折車の間に強引に割り込んでくる対向の右折車など数をあげればきりがありません。

車が錯そつする交通社会、相手の運転や行動に対してイライラすることがあります。しかし、時として自分以外の人をイライラさせていないかと、立場を変えて考えてみることも必要なことだと思えます。